

第20回 学長杯



留学生による 日本語スピーチコンテスト

2022.12.17



- 主催■ 国立大学法人 和歌山大学 国際イニシアティブ 基幹日本学教育研究センター
- 後援■ 和歌山県／和歌山市／(公財)和歌山県国際交流協会
NPO法人WINコンコード／国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川
高野山大学／和歌山工業高等専門学校／和歌山YMCA国際福祉専門学校

第20回 学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト



優勝 童 倩妮さん



2位 張 育瑄さん



3位
Khudayshukurov Komronbek Doniyorovichさん



特別賞 金 安琪さん



特別賞 黄 書州さん



WIXAS賞
Tumurkhuyag Tselmuunさん

入賞者

優勝（和歌山大学学長杯）
「褒め言葉は惜しむものではない」

童 倩妮

第二位
「日本語が上手な私」

張 育瑄

第三位
「ダイエットする男」

Khudayshukurov Komronbek Doniyorovich

特別賞
「自分の意外な一面」

金 安琪

「私にとって世界への鍵となる日本語」

黄 書州

WIXAS賞
「海賊王」

Tumurkhuyag Tselmuun



第20回 学長杯
留学生による
日本語スピーチコンテスト

はじめに

和歌山大学 学長 伊東 千尋



多くの場合、留学では、母国語とは異なる言語で授業を受け、友人たちとコミュニケーションを取ることが求められます。「和歌山大学 学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト」は、留学生が日頃の研鑽の成果を競うコンテストであり、今回で 20 回目を迎えました。テーマを考え、日本語での原稿作成そして、演場でのスピーチ、どれもが高い日本語能力を必要とするものです。母国語以外を用いて修学している留学生の皆さんの能力の高さは驚嘆するほど素晴らしく、高校時代から英語の習得に苦しんでいた者としては目を見張るものがあります。

このスピーチコンテストに、今回も和歌山県を留学先として選んだ多数の留学生が参加してくれました。演場に上がった皆さんの発表の洗練されたスピーチを聞き、その素晴らしさに感動しました。また、スピーチコンテストの壇上に上がらなかった留学生の皆さんの中にも、スピーチを日夜練習した方もいると思います。このスピーチコンテストのために努力をいただいた全ての留学生の皆さんに心より感謝申し上げます。

この日本語スピーチコンテストは、和歌山大学学長杯を謳っておりますが、実質的には和歌山県留学生日本語スピーチコンテストとしての位置付けを持つと考えます。和歌山大学そして和歌山県のダイバーシティ化の取り組みとして非常に重要なものがあると認識しています。和歌山県は、多くの移民を送り出した歴史を持ち、国際展開を進めることのできる土壌・風土がある土地です。その地である和歌山での日本語スピーチコンテストを通じて、留学生の皆さんが日本での生活について非常に大きな関心を寄せていただいていることがわかりました。日本での生活を母国のものと比較し、その違いを通して、日本文化を理解する。その過程と得られた結果についてのスピーチは、日本人にとっても非常に新鮮かつ興味深いものです。このスピーチコンテストを日本人学生にも聞いてもらうことで、留学生目線から見た日本の生活、日本の文化の理解が深まり、異文化交流が進むのではないかと毎回感じております。日本の原風景が残る和歌山で、各国からの留学生が、日本語を含む様々な言語でコミュニケーションが進む。そんな和歌山を夢に見ながら、和歌山大学はこのスピーチコンテストを大切に育てたいと考えます。



講 評

審査委員長 長友 文子



2022年12月17日、第20回学長杯「留学生によるスピーチコンテスト」が、開催されました。過去2年のオンライン開催では、海外からの参加も多くありましたが、今年は3年ぶりに対面を再開し、オンラインと併せて、ハイブリッドの開催となりました。

今回、コンテストには、和歌山大学の他に、和歌山工業高等専門学校、高野山大学から、マレーシア、ブラジル、トルコ、中国、モンゴル、ウズベキスタン、カンボジア、ベトナム、8カ国の留学生、計15名が出場してくれました。

15名の参加者のスピーチは、どれもレベルが高く、興味深い内容で、あっという間に時間が経ってしまいました。日本語は言うまでもなく、スピーチの内容や表現力、どれをとっても差をつけがたかったというのが、審査員に共通した感想で、順位をつけるのに、大変苦労しました。

皆さんは、5分という短い時間に、それぞれ、スピーチに込めたメッセージを、聞いている人々に届け、それを聞いた人々は、皆さんのメッセージに感動し、笑い、共感しました。気持ちや思いのこもったスピーチ、メッセージのあるスピーチが、聞いている人の心を動かします。ただ、自分が言いたいメッセージを聞いている人に伝えようという工夫、例えば、声を強くしたり弱くしたりといった工夫の点で、特に秀でた方が入賞となりました。

今回、入賞され、和歌山大学伊東学長から表彰状を授与されたのは、次の方々です。

学長杯に輝いたのは、和歌山大学日本語・日本文化研修留学生で中国出身の童 倩妮さん、第二位は、高野山大学留学生で中国出身の張 育瑄さん、第三位は和歌山大学日本語・日本文化研修留学生でウズベキスタン出身のフダイシュクロフ コムロンベック ドニヨロビッチュさんです。また、特別賞には、和歌山大学交換留学生で中国出身の金 安琪さんと黄 書州さん、WIXAS 賞には、和歌山工業高等専門学校の留学生でモンゴル出身のトゥムルホヤグ ツェルムーンさんが選ばれました。入賞された皆さん、おめでとうございます。

優勝された童 倩妮さんのスピーチ「誉め言葉は惜しむものではない」には、父の子を思う気持ちが上手に表現されていて、「親思う心にまさる親心」ということわざを思い出させてくれました。子を思う親の気持ちを経験したことがある方はいらっしゃるでしょうし、また、言葉に出してほめられない、といったことも、誰もが経験したことがあるでしょう。童さんのスピーチを聞いている人は胸を熱くしたことでしょう。スピーチにメリハリがあり、感情のこもった日本語でスピーチされ、大変感動的なスピーチでした。

二位の張 育瑄さんのスピーチのタイトル「日本語が上手な私」には意外さがあり、タイトルにも工夫を凝らしていました。日本に来て日本語が上手になった今、昔の間違いを、客観的に見て、見事な日本語で面白く語ってくれました。きれいな日本語で、内容にあった表情や表現力をされて、聞いている人を楽しませてくれるスピーチでした。



三位のコムロンベックさんのスピーチ「ダイエットする男」は、自分のダイエットの体験を聞いている人に面白く伝え、また、ダイエットの大切さを客観的なデータから伝えてくれました。自分自身が体験したダイエットの大切さを聞いている人に伝えたいという気持ちが、顔の表情や言葉の抑揚にも表れていました。同じ体験をした方には、特に共感できるスピーチだったでしょう。

特別賞の金 安琪さんのスピーチ「自分の意外な一面」は、留学して自分が成長していったことを客観的に捉えた、上手なスピーチでした。トップバッターにもかかわらず、堂々としたスピーチを披露してくれました。留学して自身が成長したことは、留学生のみなさん全員が共感できたことでしょう。また、同じく特別賞の黄 書州さんの「私にとって世界への鍵となる日本語」は、スピーチの構成が良く、詩人の言葉の引用もあり、大変レベルの高い日本語でした。日本語は世界への鍵、未来を開く鍵だといった表現に感心しました。

WIXAS 賞のトゥムルホヤグ ツェルムーンさんは、壇上に表れたときから「おや？」と思わせ、小道具を使いながら、「海賊王」というタイトルのスピーチをされました。これほど、会場を笑いでうずめたスピーチは初めてでした。みんなをリラックスさせ、時間のたつのを忘れさせてくれました。

今回出場された皆さんのスピーチは、全員大変レベルが高く、わずかの差で順位が決まっていました。入賞された方々も賞を取れなかった方々も、素晴らしいスピーチの内容、上手な日本語と表現力で、私たちに魅了しました。皆さんが、スピーチコンテストに向けて、一生懸命練習されたのがよく分かりました。やった！という思いも、悔しいという思いも、コンテストに出たからこそ体験できる感情です。その思いを大切にしてほしいと思います。

コンテストでは賞を取ることも大切ですが、でも、コンテストに出ようというそのチャレンジ精神は、もっと大切だと思います。何かにチャレンジするということは、自分との戦いだと思います。結果よりも、参加したことが今後の自信へと繋がってゆくと私は信じています。今回参加された皆さん、このコンテストに応募してスピーチされた勇気とチャレンジ精神を忘れないで、これからもいろんなことにチャレンジしてってください。

最後になりましたが、ご来場の皆様、ご来賓の皆さま、そして海外から視聴いただいた多くの皆さま、留学生のスピーチに耳を傾け熱心に聞いて下さり、ありがとうございました。20 回目を迎えたスピーチコンテストは、皆さまのご協力がなければ実現できませんでした。今回のコンテストでのさまざまなスピーチを通して、皆さまに、和歌山で頑張って学び、生活している留学生たちの思いを受け止めていただけたと思います。また、審査員の皆さま、協賛・後援をしてくださった各団体の方々にも、心よりお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。





CONTENTS

第20回学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト
2022.12.17 プログラム

1. 「自分の意外な一面」
和歌山大学 交換留学生
金 安琪
(キン アンキ) (中国)
2. 「学生はもっと自信を持つべきだ」
和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 4年生
Chang Chhay Hok
(チャン チャイホック) (カンボジア)
3. 「ギブアンドテイク」
和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科 4年生
Wan Aisyah Adlin binti Wan Mohd Hazim
(ワン アイシャ アドリン ビンティ ワン モハマド ハジム) (マレーシア)
4. 「日本語が上手な私」
高野山大学 文学部密教学科4年生
張 育瑄
(チョウ イクセン) (中国)
5. 「海賊王」
和歌山工業高等専門学校 電気情報工学科 4年生
Tumurkhuyag Tselmuun
(トゥムルホヤグ ツェルムーン) (モンゴル)
6. 「『サウダージ』は、日本語にない言葉」
和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Valverde da Silva Julia Cristina
(ヴァルベルデ ダ シルヴァ ジュリア クリスティナ) (ブラジル)
7. 「褒め言葉は惜しむものではない」
和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
童 倩妮
(ドウ センニ) (中国)
8. 「ダイエットする男」
和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Khudayshukurov Komronbek Doniyorovich
(フダイシュクロフ コムロンベック ドニヨロビッチュ) (ウズベキスタン)

9. 「私にとって世界への鍵となる日本語」 和歌山大学 交換留学生
黄 書州
(コウ ショシュウ) (中国)
10. 「言霊信仰の影響」 和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Rabia Melisa SISMAN
(シッシマン ラビア メリサ) (トルコ)
11. 「包容力のある和歌山」 和歌山大学 交換留学生
崔 恩語
(サイ オンゴ) (中国)
12. 「希望と期待はプレッシャーになるかモチベーションになるか」 和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Ta Nguyen Thuy Tien
(タ グエン トゥイ ティエン) (ベトナム)
13. 「私の目から見た日本文化——伝統と現代」 和歌山大学 交換留学生
高 家雯
(コウ カブン) (中国)
14. 「幸せを追わないで」 和歌山大学 交換留学生
Lee Seon
(イ ソン) (韓国)
15. 「文学に救われた私」 和歌山大学 交換留学生
張 潜弋
(チョウ センヨク) (中国)

自分の意外な一面

和歌山大学 交換留学生
金 安琪
(キン アンキ) (中国)

『三国志』には「士別れて三日なれば、即ち更に刮目して相待すべし」という言葉があります。努力している者は三日もすれば大きく成長しているのです、次に会うときには注意して見なければいけないという意味です。私は和歌山大学への交換留学で、様々なことを体験して、自分の視野を広げながら物事の見方や考え方を伸ばしてきたと思います。知らないうちに、色々なところで成長してきたのかもしれない。

二十年間の人生の中で、自分にとって最も大きな決心はこの交換留学において他にありません。交流イベントが苦手なチャレンジが嫌いな私がどうしてこんな柄にもない交換留学を選んだのですか。今になって考えても分かりません。そもそも人は複雑である以上、自分がどのように行動するのか予測できないと思います。山東師範大学にいた時、私は目立つことを避けていました。もしかすると、私は自分のことを変えるために日本へ来たのかもしれない。

山東師範大学でクラスメイトの前で発表した時、緊張し過ぎて体が震えたことは今でも覚えています。心の準備ができて、体のコントロールはなかなか難しく、スムーズに声が出せなかったです。和歌山大学の留学生コースでは、少なくとも週に一回は発表する機会があります。私はこのパターンに適応するように頑張っているうちに、段々慣れてきて、いつの間にか人前で発表しても声が震えず、前より自信を持てるようになりました。発表だけでなく、交流イベントやコンテストに怯えていた自身が去って、積極性が出てきました。このような自分にとっても驚かされました。

今は旅行が好きになって遠いところに行くのも楽しいです。「どこかに行こうか」と聞かれたら、昔の私はよく、「時間とお金がかかりそう」「あまり興味がないな」と言って断りました。でも日本に来てから旅行の予定が大幅に増えました。美しい景色は見に行かなければ損です。そして、素晴らしい人たちと出会って、美しい景色を見ながら話したり遊んだりすることが旅を更に楽しくさせます。友達と一緒に旅行で撮った写真を見た時、みんなの笑顔から旅行の意味を深く感じました。旅行の楽しさはその時、その場だけでなく、時間が経ってもその楽しい瞬間を記録した写真から感じ取れます。部屋で一人過ごすのも悪くないですが、外に出た方がいい思い出を作ることへの近道になります。

もう一つの自分の意外な一面は心の成長です。昔の自分は面倒なことが嫌いで、同時に多くのことを処理するのが苦手でした。今の私は、頼まれたことは多くても冷静に取り組んで、予定外のことでも平常心でいられます。ある日母と電話していた時、母は「私の娘が変わったな。日本に来てばかりの時、自分の部屋の設備が整ってなかったことで落ち込んだこともあるのに、今はもう他人から頼られる存在だね。」と言ってくれました。「本当？自分でも気づかなかった。」と私は答えました。小さな努力を積み重ねれば、周りの人だけでなく自分も驚かされるのではないのでしょうか。

私は交換留学の志望書に日本語に関する能力を高める目的ばかりを書きました。実際は日本語能力を高めるだけでなく、学生として、人としての生活への態度や、人生を有意義にさせる行動など、自分が踏み出した一步を確実に感じました。ただ大人しく待つだけでは何もできません。進めば最低でも二つのものが手に入ります。たとえ目標達成がその二つに入らなくても、自分の成長は一つだけとは限らないのです。



学生はもっと自信を持つべきだ

和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 4年生
Chang Chhay Hok
(チャン チャイホック) (カンボジア)

「なぜいつも自分を他人と比べるのだろうか?」「なぜこんな簡単なことさえできないのだろうか?」、こんな感情を持ったことがありますか。これらの問いかけは主に学生自身の自尊心あるいは自信に関係するものです。学生が自信を持つことがなぜ重要なのでしょうか? 自尊心あるいは自信は、学生が過ちを経験したときに、それに対処するために役立ちます。最初は失敗しても、学生がもう一度やり直すために必要なものです。そのため、自尊心あるいは自信を持つ学生は、学校、家庭、友達との間でうまくやっていくことができます。自尊心の低い学生は、自分に自信が持てないために人間生活で多くの不安を感じるようになります。

学校は、学生が自分のスキルを磨く場所だけでなく、自尊心あるいは自信も学ぶところだと思います。例えば、恥ずかしがり屋の学生は自分の知識を示す機会を少なくしてしまうため、教師はこれらの学生に対して少し悪い印象を持ってしまう可能性があります。また、恥ずかしがり屋の学生は、友達関係でもより弱い関係になりがちです。そのため、彼らは、社交的な同級生よりもキャリアにおいてより多くの困難に直面する可能性があります。自信さえあれば、学生は容易に挫折を乗り越えることだってできるのです。回復力の強い学生たちは、失敗によって歩みをとめるのではなく、すぐに立ち上がり、過ちから何かを学び、もう一度やり直すことができます。彼らは失敗が人生の一部であることを受け入れ、結果的により多くのチャンスをつかむことができると信じています。

自信は、人間がこれからの人生のための準備ができていると感じることにもつながります。人は自信を持っているとき、複雑な人間関係やチャンスから距離をおいてしまうのではなく、前に進むことを選択する可能性が高くなります。最初はうまくいかなくても、自信があればやり直すこともできるからです。自信が低いときはその逆です。親として、子供を他人と比べることは子供を強くするためには役立たないと思います。私の国カンボジアでも、親はたいてい悪い結果を子供の行いのせいにします。親は自分の子供を他人と比較しているのです。自分の子供を比較することは子供に自信を失わせ、目標を達成する行動をとることを躊躇させます。子供を責める代わりに、良いアドバイスや良い言葉で励ますべきなのです。

学校や家族以外に、課外活動でも学生の自信を改善することができます。学生の社会的スキルを向上させ、興味を育み、新しいことに挑戦するよう促すのです。また、学校で何か苦労している学生にとっても、楽しくストレスの少ない環境で過ごすための良い方法になると思います。協調性、責任感が育むことができ、それが自分の自信を高めることにつながります。

このように自信を高めることは、自己不信や自分自身についての否定的な考えから解放されます。恐れがなくなり、不安が減ります。自信が持てるようになると、賢明にリスクを冒す意欲が高まり、「快適な空間」である「コンフォートゾーン」の外に出ることができるのです。

みなさん、自信を持って、外の世界に飛び出していきましょう。



ギブアンドテイク

和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科 4年生

Wan Aisyah Adlin binti Wan Mohd Hazim

(ワンアイシャ アドリン ビンティ ワン モハマド ハジム) (マレーシア)

私の趣味の一つはユーチューブを見ることです。ある時、アメリカの有名な心理学者アダム・グラントの「あなたはギバーですか、テイカーですか」という動画のタイトルが目に入り、見てみました。この動画は実証研究に裏付けされおり、とても興味深い内容だったので、今日はこのことについて話してみたいと思います。

著者の議論の根底にあるのは、「ギバー」、「テイカー」、「マッチャー」という人間の思考と行動の三類型です。「ギバー」は相手の利益を優先し、自分が受け取る以上に人に与えようとする人です。「テイカー」は自分の利益になることを優先し、より多くを得ようとする人です。「マッチャー」は与えることと、受けることのバランスを取ろうとする人です。

著者は、さまざまな職業で上の三つのタイプの人たちの仕事の成果について研究しました。ここで、皆さんに質問します。「どのタイプの人たちが成功する、もしくは失敗すると思いますか？」私は、成功するのは「マッチャー」で、失敗するのは「テイカー」で、「ギバー」は「マッチャー」と「テイカー」の間になるんじゃないかなと思っていました。

彼の組織行動論による実証研究によると、どのような職種であっても、最も生産性が低く効率が悪いのは、つまり、成功の段階の一番下にいるのは「ギバー」です。続いて、「テイカー」が下から二番目になります。では、「成功の段階の一番上にいるのはマッチャーで決まった」と思っている人がいるかも知れませんが、実は、そうではなく、成功の一番上にいるのも「ギバー」で、上から二番目が「マッチャー」になりました。要するに、最も成功する人と最も成功しない人が「ギバー」です。つまり「ギバー」は「単純なお人好し」にもなるし、「最高の勝利者」にもなれるのです。

なぜギバーが最も成功するのか、その理由を説明したいと思います。多くの人々は「他人に利益を渡すと、自分の利益がなくなる」と考えます。ですから「他人のために何かしてあげたい」と思っても、なかなか行動できません。しかし、成功する「ギバー」は「自己犠牲」ではなく、「他者志向性」を持っています。「他者志向性」とは、例えばチームで仕事をするとき、自分の取り分を心配せず、全員のために高い成果を出すことを目的として設定するという意味です。自分のためではなく、グループ全員が得をするように利益のパイを大きくすることを考えています。

私はアダム・グラントの動画を見て、自分が両親や宗教から学んだ価値観ととても似ていると感じました。私は、幼いころから「情けは人の為ならず」、つまり「人に対して情けをかけておけば巡り巡って自分にいい報いが返ってくる」という言葉を両親や先生達からよく聞いてきました。現代の著名な心理学者の語る「他者志向性」を持った「ギバー」の価値観は、自分がこれまで大切にしてきた価値観と一致しています。そのため「このような人達みたいになりたい」という気持ちを強く感じました。

最後に、あなたは「ギバー」ですか、「テイカー」ですか、それとも「マッチャー」ですか？



日本語が上手な私

高野山大学 文学部密教学科 4 年生

張 育瑄

(チョウ イクセン) (中国)

もし、あなたが外国と交流する機会に恵まれたら、どうしますか。行きますか、それとも行きませんか。私は異文化に触れるイベントに参加するのが好きなので、行く選択をしました。

それは高校2年生の時、日本の高校生と1対1で交流できる「日中小大使」というイベントでした。これは、日本の学生さんとペアを作り、それぞれペアの家で三日間ホームステイをするというものです。

当時の私は小学校の時から日本のアニメに夢中でした。中学生の頃、「ソードアート・オンライン」というアニメに夢中になり、毎週水曜日の8時には必ずパソコンの前で更新を待っていました。この数年間日本のアニメを見てきたからこそ、日本語を聞き取ることができて、アニメの中にある「かわいい」「おいしい」「楽しい」などの言葉を聞いても理解できました。だから「日本語を習ったことがなくてもきっと上手に話せる」と思っていました。

最初は私たちが日本へ行きました。でも日本についてから3日間、ずっと私の日本語能力を発揮する機会がありませんでした。日本人が話す日本語を理解できなかったのです。それは私のせいではなく、彼らはきっと特別に公式なことを言っているからだと思っていました。

色々なイベントの後に、いよいよホームステイが始まりました。

その時ちょうどアニメで「行こう」という単語を学んだので、ぜひペアの工藤さんに話して、私の上手な日本語能力を披露してみたいと思いました。ホームステイの翌日、私たちが動物園で遊んで家に帰ろうとしているとき、私は小さな声で「行こ」と言ってみましたが、彼女からは何も返事がないのです。その後機会がある度に何度も「行こ」を言いましたが、彼女は反応しませんでした。なんでこんなに簡単な日本語も聞き取ってくれないの？ついに私は結論を出しました。日本には「ikou」という言葉はありません。

その後も「日本語を話すのは難しいけれど、通訳することはできる」と確信していたので、工藤さんが中国に来た時は、私は自然に家族の通訳の役割を担っていました。

中国のおいしいものをたくさん食べさせたいと思い、料理がとても上手な祖母の家に招待しました。家に着くと、工藤さんは祖母が大きなテーブルいっぱい料理を作っているのを見て、日本語で「おいしそう」と言いました。この時の私は「かわいい」は誉め言葉、「かわいそう」の意味は「かわいい」に「そう」がついて反対の意味になると思っていたので、「おいしい」の後にも「そう」をつけると「おいしい」の反対の意味になると推測しました。そこで、私は自信満々に「彼女はおいしくないと言っている」と祖母に伝えました。そして工藤さんは中国人みたいに正直だなと思いました。

こんな風にいろいろな失敗や勘違いがありましたが、その失敗や勘違いに気が付いたのは2年後に日本に留学してからです。

先月、三年ぶりに工藤さんに連絡を取ってスピーチの原稿を送りました。工藤さんは「6年も前のことなのに「行こう」って言ってくれてたんだね」とびっくりしていました。ついに私が何かを理解しました——アニメを観ただけで日本語は上達しない！でも今日本語が本当に上手な私はきっと彼女ともっと仲の良い友達になれると思います。



海賊王

和歌山工業高等専門学校 電気情報工学科 4年生
Tumurkhuyag Tselmuun
(トゥムルホヤグ ツェルムーン) (モンゴル)

「ワンピースを見つけて海賊王に俺はなる」。海賊王 Gold・D・My Father は「おれの財宝か？ほしけりゃくれてやる！探せ！この世のすべてをそこに置いてきた。」といました。私は、その言葉に従い、海がない自分の国モンゴルから海に囲まれた日本へやっと来ました。

海賊王の道はもちろん簡単ではなく、強い敵がたくさん現れました。強さを手に入れるために私は「ガンバルガンバルの実」を食べて「頑張る人間」になりました。敵を倒すには信頼する仲間を集める必要があったので、東京にある日本語学校に旅に出ました。そこで私は世界一の剣士になりたい「シャーペン」、世界地図を描きたい「ノート」、どんなものもおす「消しゴム」に出会いました。これらの仲間と一緒に、一年間日本語学校の旅が始まりました。

日本語学校に入って2日目の午後2時17分、私は最初の敵に出会うことになりました。そうひらがなとカタカナです。ひらがなを倒すためにはとても似ている「わ」「れ」「ね」そして「ろ」「る」を区別する必要がありました。ひらがなは難しかったですが、私は「ガンバルガンバルの実」を「食べたガンバル人間」なので、あきらめずに戦って勝利しました。そして次にカタカナの「シ」「ツ」「ソ」「ン」「ノ」を区別できるようになり、カタカナにも勝利しました。

こうして、ひらがな、カタカナを味方にした私は、スーパーにお祝いのお肉を買いに行きました。そこで店員に「レジ袋はいりますか？」と聞かれた瞬間、私の目の前に新しい敵が現れました。日常会話です。私はどうしていいかわからず「はい」としか答えられません。「レジ袋はいりますか？」という日常会話から逃げることはできませんでした。その後、私は「日本語教科書」も旅の仲間に加え、少なくとも日常会話からは逃げることはなくなりました。今ではわからない言葉があっても、その人に別の言い方で聞くなどして、ちゃんと会話ができるように努力しています。

次は自分の力を知るための日本語能力試験1級という四つの門に挑戦しました。この四つの門は、「文字・語彙」、「漢字」、「リスニング」、「読解」です。この門の扉すべてを開くことで、新世界、つまり私の在学学校「和歌山高専」で生き抜くための強さを証明したかったのです。私は「ガンバルガンバルの実」の必殺技「チョーガンバル」を使って、この四つの門を何とか突破し、新世界への旅を始めることができました。

新世界では日本語学校と全く異なり、日本人でも難しいような敵がたくさんいます。新世界でできた新しい仲間と共に、私は今日もワンピースを探すために新世界で旅を続けています。

このスピーチコンテストもワンピースを見つけるための一歩なのです。最後に、

「ワンピースは実在する。」

ありがとうございました。



「サウダージ」は、日本語にない言葉

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生

Valverde da Silva Julia Cristina

(ヴァルベルデ ダ シルヴァ ジュリア クリスティナ) (ブラジル)

「翻訳できない世界のことば」という本があります。エラ・フランスの「翻訳できない世界のことば」という本に、ある言語にしかない表現が出てきます。文化と言語は分けられないものなので、その国独自の表現があり、他の言語に訳せないということがあります。

移動する時とか同胞が一人もいない所に行く時に、自分の国が恋しくなるのは当然だと思います。なぜなら、外国に行くと、失うことが多いからです。たとえば、安定感、母語で話すこと、つまり安心感。

このような時、自分の気持ちを表す表現を外国語に訳そうと思っても、適切な表現がないことはよくあるでしょう。自分が思っていることを外国語で表現できないことはよくあることです。なので、作家エラのように翻訳の問題は不思議だと思い、どうして翻訳できない言葉があるのでしょうか。どうやったら、ある言語にしかない表現を他の言語に訳せるのでしょうか。

作家エラによれば、ポルトガル語で他の言語に直接の相当語句がない表現は「サウダージ」だそうです。辞書には、「サウダージ」は「ホームシック・何かを希望すること・誰かがいないことを寂しく思うこと」と書かれています。皆さんの母語にそのような言葉がありますか。英語には、誰かがいなくて寂しくなると I miss you という表現があります。同じように、日本語にも「会いたい」や「恋しい」や「懐かしい」などの表現があります。サウダージには前者の表現の意味に近いですが、サウダージは悲しい言葉だと思います。なぜなら、何かがないとき、誰かがいない時しか使わない言葉だからです。

例えば、とても会いたい人がいるけれど、その人は外国にいて会えない、あるいは、もう亡くなっているから会えない、といったときに使われる言葉です。具体的には、次のようなことです。

皆さんの中には、愛していた人を亡くしたことがある方がいるかもしれません。その時に、その人のことを思ったら、泣きたくなったり、「一緒にいたら幸せなのに」、「時間を巻き戻せたらいいのに」って思うことがあるはずです。ポルトガル語の「サウダージ」は、そのような時に使う言葉です。

最近、私は毎日サウダージを感じています。私のサウダージの気持ちを皆さんとシェアしたいと思います。

誰もいない家に帰ったら、「お帰り」なんて言われたい時

美味しい物を食べているのに一緒に食べる人がいないから 苦い味が口に残っているような感じの時
誰かのこと思い出させる物を見ると胸が痛くなる時

このような気持ちを表現する言葉は、皆さんの言語になくても、感じることはあると思います。私の国の言葉では、その感じを「サウダージ」という言葉で表しますが、皆さんの国では、どのような言葉で表しますか。作家エラは人がどのように自分たちを区別してみても、結局皆は同じだと書きました。人は、同じように、落ち込んだり、笑ったり、苦しんだり、泣いたりします。しかし、そのような苦しさはそれぞれの言語で伝え方が違います。自分の心に深い希望や隠れている願いがあったら、それはサウダージです。言わなくても、言葉で伝えることができなくても、翻訳しなくても、異文化であっても人間なので感情や心情が分かり合えます。

私の翻訳なんですけど、ネルダという作家はこのように書きました。

愛がまだあるのに愛していた人はもういないというのはサウダージだ。

サウダージは去っていった過去を愛し続けること、現在の苦しみを否むこと、未来からの招待を断ること

以上です。ご清聴ありがとうございました。



褒め言葉は惜しむものではない

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
童 倩妮
(ドウ センニ) (中国)

みなさん、こんにちは。和歌山大学日本語・日本文化研修留学生の童センニと申します。今日私が発表するテーマは「褒め言葉は惜しむものではない」です。日本ではどうかわかりませんが、中国では、子供は褒められても自慢してはいけないと教えられます。私の両親もそう思っているから、私にもそのような教育をしました。私自身も自慢することは大敵だと思い込んで、他人の褒め言葉を軽視してしまいました。その理由は、例えその褒め言葉が心から自然に湧いてきたものでも、本当に褒め言葉かそれともただの皮肉かと考えてしまい、素直に受け入れられなかったからです。相手の褒め言葉を受け入れられない私のことですから、他人を褒めることもほとんどありませんでした。

しかし、日本に留学することが決まったとき、少し考えが変わりました。日本語・日本文化研修留学生に選ばれたとき、すぐにその結果を父と指導先生に伝えました。父からはただ「日本に行ったら勉強をちゃんとするように」と言われただけでした。父のことですから、そういう冷たい言い方をしてもおかしくはありませんが、私は褒められると思ったから、すごく失望して、自分の努力が否定された感じがしました。ところが、日本語を指導してくれている先生からももらった返事は、父の言葉に比べて、すごく温度差がありました。「おめでとう。童さんのことだから絶対いけると思った！頑張ってきてよかったね。」と、その絵文字付きの、本人より嬉しそうなメッセージを見た瞬間、心の中の失望と悔しさは急にあふれ出る涙によって流されました。その時、私は留学できることより、先生からももらった言葉のほうがずっとうれしかったです。

その後、留学の準備のために実家に帰ったとき、ふだんあんまり話したことがない近所のおばあさんに、いきなり話しかけられてびっくりしました。おばあさんの話によると、私が留学すると父から聞いたそうで、しかもすごくにこにこして自慢していたらしいです。本人の前では褒め言葉一つも言わないのに、私の知らないところで町中の人に自慢していました。そのような父だから、私が帰ってきてても、ただ無表情で「お帰り」と言うだけでした。本当は嬉しいのに、私に自慢させないため、わざと何もなかったようなふりをしたのではないのでしょうか。近所のおばあさんが言ってくれなかったら、あやうく父の本当の気持ちがわからないままでいたかもしれません。

しかし、相手を喜ばせる、「すごい」という一言がそんなに言いづらいのでしょうか？昔なら私は恥ずかしくて言えなかったですが、留学で日本に来てからは、自然に口に出るようになりました。なぜかというと、「〇〇さん漢字がわかるのはすごい」「〇〇さんは日本語の発音がすごく上手だ」など、教室の中ではほぼ毎日使われているからです。実際に、日本に来た留学生用語ランキングの一位は「すごい」です。シンプルな表現だけど、留学生とのコミュニケーションには欠かせない言葉だと思います。そのおかげで、私も徐々に言えるようになりました。

これまでの人生の中で気づいたことは、真心のこもった褒め言葉は、例外なく人を喜ばせるということです。褒めすぎると、その価値が下がるという人がいるかもしれませんが、称賛は、その人の自尊感情を高め、価値を与えるものです。簡単な一言で人に小さな幸せを与えられるなら、褒め言葉をあえて言わない理由はどこにもないのではないのでしょうか。ふだんから人を褒めることが苦手な人も、今日から恥ずかしがらないで、人を褒めてみませんか。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。



ダイエットする男

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Khudayshukurov Komronbek Doniyorovich
(フダイシュクロフ コムロンベック ドニヨロビッチュ) (ウズベキスタン)

4年前、大学に入るために、親に塾に通わされていました。塾での授業はほぼ毎日、よる遅くまで続いていたのです。そのため、母が用意してくれた夕飯を食べるのもいつも遅くなっていました。ある日のよる、お腹の痛みで目がさめました。腹痛がなかなかおさまらなかったので、親が私を病院へ連れていってくれました。いつもよる遅く帰って、夕飯を食べてからすぐ寝てしまったことが腹痛の原因だったみたいです。お医者さんにいろいろな薬とともにダイエットもすすめられました。それで初めて私はダイエットををはじめました。

私が住んでいるところは地方で、人々は畑の仕事などをしたりして、とても働きものです。そのため、人々はカロリーが高い料理ばかり食べます。私がダイエットをしていることを聞いた村の人に「へえ、ダイエットしているの、男もダイエットするの」、「ダイエットって何？それは女性がするもんじゃない」というふうな反応をよくされていたのです。周りの人や友達などにこういうふうに言われるのは面倒でしたが、お医者さんに勧められたので、仕方なく数カ月間ダイエットをし続けました。そのおかげで胃も治りましたし、もともとぼっちゃりしていて、そばかすやニキビだらけだった私は、ダイエットの効果で痩せて、顔にあったそばかすやニキビなどもほぼなくなりました。高校の時には彼女がいなかった私、大学に入ってからモテるようにもなりました。それで定期的にダイエットをするようになりましたが、周りの人や友達などの反応は同じでした。それで、その理由について考えてみました。

2021年のWHOのデータによると、世界の平均寿命のランキング表では、194カ国の中で、ウズベキスタンは100位で、世界のなかで平均寿命が短い国の一つだそうです。この主な理由の一つは人々の食生活です。日本の料理は世界一ヘルシーで、日本人は痩せるために年齢、性別に限らず、だれでもダイエットしています。ウズベキスタンの料理は美味しいですが、油っぽくて、カロリーが高いです。それが、肥満症などの色々な病気の原因となります。人はカロリーが高い料理を毎日食べますが、カロリーを消費するために、運動やダイエットなどをほとんどしません。女性は痩せてきれいになるために、一応ダイエットをしますが、男性の中には、ダイエットは「男性がするものじゃない」というような間違った考え方を持っている人が多いです。だから、男性の中には肥満症などで苦しんでいる、あるいはまだ30代なのにメタボなお腹で悩んでいる人が結構見られます。

仕事などで毎日忙しくて、運動にはなかなか時間を作れない、こういう人のために、ダイエットはおすすめです。一ヶ月間ダイエットするだけで脂肪がおちてきれいに見えること、病気のリスクが低下し健康になること、ストレスを感じにくくなり、周りからも評価が上がることなどの効果が期待できます。ダイエットは女性だけでなく、誰でもするものです。周りから「男性はダイエットはしない」という間違ったイメージを払拭しなければなりません。

このために2つの方法が考えられます。1つ目はこのようなスピーチなどでこの問題について話すことです。もうひとつは、インスタグラムのようなソーシャルメディアで、ダイエットの利点を共有することです。私は今も、定期的にダイエットを続けています。インスタグラムなどでダイエットをしている様子をインターネットに投稿していますが、それを見て、私もダイエットを試してみたいという男性の友達が増えているのです。周りの人から色々からかわれることは今もありますが、私は気にしません。

みなさんも健康のために、ダイエット試してみませんか。健康のために、一緒に頑張っていきましょう。



私にとって世界への鍵となる日本語

和歌山大学 交換留学生
黄 書州
(コウ ショシュウ) (中国)

18歳で大学に入るまでは、自分の人生が日本語につながるとは思ってもみませんでした。

私は親族の中で今まで唯一の大学生です。四年間勉強して無事に大学を卒業して故郷に帰って就職し、それから結婚して子供を産んで、順風満帆の人生を送っていくのは父が立ててくれた人生計画です。しかし、日本へ留学に来た私は明らかに新たな人生の道を歩み出しました。それは私自身が選んだ道です。

日本語は私にとって一体何なのかと常に考えています。父が言ったような「一文の値打ちもない」ものか、それともある先生に教えられた「言葉はただの道具」ですか。いまだに、日本語学科を選んだことを父に伝えたとき、父の驚きと困惑な表情をはっきり覚えています。

実は私はすごく後悔した時期もあります。日本語の勉強が難しく大変ですし、日系企業の少ない内陸で暮らしている私は大学を卒業したら、地元で日本語関連の仕事に就きにくいですし、みんなの期待を裏切ってしまう、と不安でした。しかし、日本語の勉強をすればするほど、その答えがだんだん明らかになりました。私にとって日本語は世界への鍵であり、新しい人生の道を歩み、新しい未来を開いていく鍵です。

「森の分かれ道では人の通らぬ道を選ぼう。すべてが変わる」。これはアメリカの有名な詩人口バート・フロストの名言です。20歳の私は鍵である「日本語」を持って日本の「ドア」を開けてみようと思いました。深刻なコロナ禍の中で日本に来られ、交換留学生として半年間和歌山大学で過ごしていきますが、日本にいる時間を大切にしていこうと思います。

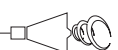
和歌山大学で韓国、フランス、ベトナムなど、世界各国から来た留学生とクラスメートになったり、友達になったりすることは思いもしませんでした。そして、授業中にグループ代表として発言することも多く、すごく達成感があります。「必修教室」の「必修」を「自習」に聞き間違え、韓国人留学生を教室から図書館に案内してしまったこともあります。外国人の同級生と一緒に食堂で食事をしながらおしゃべりをするような楽しい一時を過ごすことも多いです。どれもいい経験でした。

最近、アルバイトを始めました。自分の努力で少しでも報酬を得る一方で、学校以外で多くの日本人に出会うチャンスを作りたいです。アルバイトは大変ですが、同じ職場でアルバイトをしている日本人の高校生と日本語で交流することができ、いい勉強になりました。

夜風に伴い、歌を聴きながら、自転車で寮に戻る途中で、宮崎駿さんの言葉が頭に浮かびました。「夢だけど…夢じゃなかった」。和歌山でのこのすべての経験は、一生忘れられない貴重な思い出になるでしょう。

中国でも日本でも、若者たちは「将来何をしたいか」と聞かれます。実は私にもよく分かりません。しかし、これから、日本語の教師になっても、日系企業の社員になっても、日本語につながる仕事をしたいと思います。自分の学んだ知識を生かしながら、働くのが夢です。

日本語は一文の値打ちもないものではありません。日本語は単なる道具でもありません。私にとって日本語は世界への鍵です。みなさん、日本語を通して、豊かで多彩な世界へ、自分らしく進んでいきましょう。



言霊信仰の影響

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生
Rabia Melisa SISMAN
(シッシマン ラビア メリサ) (トルコ)

皆さん、初めまして。和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生のメリサと申します。トルコから参りました。よろしくお願ひします。私のスピーチのテーマは、「言霊信仰の影響」についてです。みなさんは「言霊信仰」について何かご存じですか。ご存知のかたもいらっしゃると思いますが、今日は、「言霊信仰の影響」について、私の経験もまじえてお話ししたいと思います。

わたしは物心ついた頃から、人と話すとき、すごく緊張してしまいます。それに比べて、聞く行為は緊張などしませんので、話すことよりも気持ちが楽でした。相手が、誰かの悪口を言ったとしても、聞いているだけなので私には責任がありません。でも誰かについて何かを話すときには、責任がともなうので、慎重に言葉を選んで、結果を考えながら話していました。それが緊張の理由だったかもしれません。ある日、私はトルコの大学で履修した、日本の古典文学の授業で紹介された作品に魅了されました。なぜ、話すのが苦手だったのか、なぜ、今まで結果を考えながら話をしていたのか、その理由が作品の中にあっただからです。その作品の中に、「言葉には魂があること、良いことを言えば良いことが起こり、悪いことを言えば悪いことが起こる」と書かれていました。つまり、言霊信仰のことです。聞いたときは理解できませんでしたが、なぜか、その言葉に魅了され、その意味もだんだんわかるようになってきました。その魅了された古典作品の冒頭のところをお話ししたいと思います。

「大和歌は人の心を種として万の言の葉とぞなれりける。」この大和歌は、人の心をもとにして、色々な言葉になったものです。大和歌は日本人の魂を表しているのだと思いました。なぜならこれを書いた人の言葉は、心の中の想いや気持ちが言葉になったものだと、強く感じ、伝わってきたからです。そのような理由から、この古典作品の冒頭が美しく聞こえたのだと思います。

このように、言葉には魂があるため、それが言霊信仰となり、日本人が本音を言うことを避けることにもつながっているのではないのでしょうか。言葉は強力な武器です。人の名前を言うだけでも、かなり強力な効果があります。自分でも、名前が呼ばれると、何か大変なことがあったんだなと思います。たとえば、結婚式での「切る」や「終わる」などの言葉がタブーなのは、先ほど述べました言霊信仰に関連付けることができます。結婚式の最後まで「閉会」ではなく、「開会」と呼んで、新しい人生が始まるという意味を表すのも、そういった理由からだと思います。言葉を変えるだけで、前向きな気持ちにさせる効果がありますよね。日本語は、他の外国語に比べると、相手を冒瀆するような言葉が少ないというのも面白いことだと思います。

言霊信仰が無意識に日本語の使用に影響を与えてきたことを理解したとき、より深く日本語が理解できるようになりました。自己中心的な文章ではなく、何かに影響された自己や文章。つまり、言葉の存在によって私ができるような影響を受けるか、また言葉が私にどのように影響するかということです。以前、翻訳の授業を受けたとき、先生になぜ「道をまよう」ではなく、「道にまよう」なのかと尋ねたところ、「文法だから」と答えられました。しかし、考えてみれば、「道に迷う」というのは完全に日本語独特の表現です。道を迷ったのは私じゃない、道が私を迷わせました。あるいは道の精霊が私を迷わせたと考えれば、ほとんどの文学作品に、それと似たような表現が使われていることに驚きます。このような表現もまた言霊信仰と関係があるのだと思います。「道」という言葉にも魂があるため、そのような表現になっていると思います。また、日本語はとても詩的で、意味がわからなくても、心地よく聞こえます。

今、日本語を学んでいる、または学びたいと思っている人は、言霊信仰が、日本語や日本語の使われ方に、どのように影響しているのかを理解したとき、表面的な理解ではなく、言葉を日本人、日本文化とつなげて、深く理解できるようになると思います。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。



包容力のある和歌山

和歌山大学 交換留学生
崔 恩語
(サイ オンゴ) (中国)

私は大学に入ってから日本語の勉強を始め、二年半ぐらい経ちました。中国の大学で言葉だけでなく、日本文化や日本文学などについての専門知識を学んできました。今年の九月に交換留学生として和歌山にやってきました。日本に来る前に、日本文化の授業で日本人は沈黙の民族だと聞いて、日本人は中国人と全く違う性格を持つ印象が強かったです。そして、和歌山は東京、大阪のような大都市より、留学生はそんなに多くないと思って、ちょっと不安でした。しかし、日本に来てから、その印象はすっかり変わりました。和歌山は外国人に優しく、包容力のある町だと実感したのです。

和歌山に着いた初日に、私は一人で自動販売機で飲み物を買いました。自動販売機の使い方に慣れてなくて、飲み物だけ取ってお釣りを忘れてしまいました。そのとき、ある日本人は私を呼び止め、日本語で話しかけてきました。初めて先生以外の日本人と会話をするので、緊張してしどろもどろに「あの……すみません、わかりません。」と答えました。向こうは私が日本人ではないと気づき、今度は英語で私の忘れたお釣りを手のひらに広げて、「Here you are」と渡してくれました。私はあまりにも驚いてそのお釣りをとって日本語ではなく英語で「Thank you」とお礼を言いました。和歌山に着いたばかりで、まだ慣れていない私にわかりやすい言葉で話してくれて、本当に助かりました。

和歌山に来てまだ二ヶ月しか経っていませんが、大学の先生たちやスタッフさんの方々、周りの住民たちにも、勉強だけでなく、生活など多方面において、援助していただきました。和歌山 JR 駅で電車に乗って加太に行った日のことです。道が分からなくてグーグル地図を見ながら、横断歩道で迷っている私たちの姿を見た清掃員さんは、私たちの近くに来て「どこに行きますか。」と聞いてくれました。行き先を彼女に伝えたら、駅の改札口まで案内してくれました。小雨で寒かったのですが、私たちは心がいっぱいでした。知らない地元の人々からの優しさで、最初の不安感がだんだん解消されるようになりました。

また、和歌山のイオンモールなどのデパートやスーパーに行くとき、気づいたことですが、日本語と英語のアナウンスだけでなく、中国語と韓国語のアナウンスも流れています。そして、韓国語、中国語など多言語で表示されている掲示板やタッグシールもよく見かけます。自国の言葉で流されるアナウンスを聞いたら、日本語が全然わからない外国人も心配せずに楽しいショッピングができます。東京や大阪のような都市部で多用される中国のアリペイや WE チャットも、和歌山のコンビニやショッピングセンターで使えるようになって、とても便利になりました。それも、外国人に対する思いやりの一つでしょう。

日本人と違う考え方、違う言語を持つ外国人を理解して受け入れることから、和歌山の包容力が見られます。私は日々身近なことから和歌山のみなさんの親切さと優しさを深く感じています。外国人の私に優しく手を貸してくれて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからの三ヶ月間、包容力のある和歌山でもっとたくさんのいい思い出を作ろうと思います。



希望と期待はプレッシャーになるかモチベーションになるか

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生

Ta Nguyen Thuy Tien

(タ グエントウイ ティエン) (ベトナム)

私たちの生活には、成功した人の多くの面白いストーリーがありますね。しかし、私は、人が成功をするためにどのようなプレッシャーやモチベーションを持っていたのか、そして何がその2つを形成したのかに興味があります。それで、「希望と期待はプレッシャーになるかモチベーションになるか」というテーマを選びました。

まず、期待といえば、両親にとって子どもがちゃんとした人間になれるようにということでしょう。次に、希望とは自分にとって何かの実現を望むことです。

希望は人間の味方であり、敵でもあるという二つの役割を果たします。例えば、希望の通り物事が進んだら、絶好調に感じるのではないのでしょうか。逆に、希望どおり行かなければ、消極的になり、ほかのことをやる気持ちもなくなり、がっかりした状態が長い時間続くかもしれません。どちらの面でも希望はいつも私たちの中に存在しています。

私は学生時代からいつも周りの人に期待されていました。親戚や先生たちや近所の人までよく「ティエンさんならできる」と言い切りました。私はこんなことを聞くたび、ちょっと嫌な感じがしました。やったことは自分のことなので自分で一番わかります。ベトナムには選ばれた人だけ受けられるという試験があって、その試験の成績がちょっとよかったので、周りの人は私のことを「できる人」だと思ってしまいました。それで、周りの人の期待から、自分は失敗を認めるのが怖くなりました。いつも成功しなければならぬと思っていました。その時私は、どこにも遊びに行かず、一日中勉強しました。そのうち両親の誇りになるだけでなく、やるだけのことはやったので、後悔はないという気持ちになりました。そんな日々を繰り返しているうちに、もう周りの人の期待ではなく、自分の希望になりました。自分でプレッシャーとモチベーションを作っていきます。勉強している間、一流にはなれなくても、だれにも負けたくないと思っていました。いつも、「頑張らなきゃ、しっかりしよう」と自分に言い聞かせました。このモチベーションから、師範大学での奨学金が3年間毎学期もらうという、小さな成果を収めることができました。ほかの優秀な同級生に比べると、この成果は小さいですが、学生時代は誰でも奨学金をもらいたいものです。なので、「(まあ)私も少しできた」と思いました。

希望と期待はプレッシャーになるかモチベーションになるか自分の選択次第です。ベトナムでは「プレッシャーなければ、ダイヤモンドなし」ということわざがあります。では、「ダイヤモンド」はどうやって作るのでしょうか。プレッシャーが要るんですけど、恐怖やパニックを感じすぎると消極的になり、何もできません。希望や期待で問題を過度に考えずに、リラックスして考えれば、賢明なやり方が思いつけるし、冷静でいられます。ゆっくりゆっくり、自分の計画が少しずつ進められます。

私も希望と期待のプレッシャーとモチベーションのおかげで、今の私がいます。今まで、まだ何も成し遂げていませんが、少なくともずっと胸に抱いた夢がかないました、日本での留学です。私も少しできたので、皆さんの希望もぜひかなうと信じています。



私の目から見た日本文化——伝統と現代

和歌山大学 交換留学生
高 家 雯
(コウ カブン) (中国)

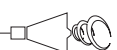
メソポタミアの古代バビロニア人が創造したメソポタミア文明であれ、ガンジス川のインド人が創造した仏教文明であれ、五千年の長い歴史を持つ中華文明であれ、世界の各民族がそれぞれ自分の文化を持っています。もちろん日本も例外ではなく、縄文時代、弥生時代を経て21世紀のグローバル時代に至るまで、自国の文化を絶えず更新させ、持続的な発展を遂げています。外国人である私の目から見れば、日本文化は、伝統を踏襲し、現代まで革新を続けてきました。伝統と現代が共存し、深め合い、日本を代表する新たなカルチャーが生み出され、アジアだけでなく、世界にも影響を与えています。

日本の伝統文化といえば、着物、歌舞伎、茶道などが挙げられます。たとえば、茶道。日本から派遣された遣唐使が唐のお茶を日本に持ち帰りました。日本人は簡単な模倣を急ぐのではなく、その細かい改造によって最終的には「道」に昇格させ、荘重で神秘的な要素も加えました。要するに、中国の茶文化は日本に入ってから日本式の「茶道」に生まれ変わったのです。

日本の現代文化と言え、最初に頭に浮かんできたのは世界的にも影響力のあるアニメ文化でしょう。中国でも日本のアニメは大人気です。例えば、世界を風靡したアニメ「SLAM DUNK」。主人公の桜木花道は優しくて明るい高校生ですが、敵味方の実力とどんなに差があっても、どんなに傷つけられても、自分の信念と夢を堅持しています。日本のアニメは様々な人物と場面の描写を通じて、主人公の挫けても前向きな性格を巧みに表現しています。現代文化を代表する日本のアニメ文化からは日本歴史の時代性と日本民族の国民性の特徴が伺え、世界のアニメ産業の発展にも大きな影響を与えました。

時代の流れの中で、日本の伝統文化は現代に入ってから衰えるどころか、逆に日本の現代文化とうまく融合し、新たな生命力が蘇りました。日本は伝統文化をひたすら伝承するのではなく、外来の優れた文化を吸収した上で革新を果たしてきました。そして外来文化に対して日本人は寛容で開放的な態度を取っています。外来文化を吸収すると同時に、日本人は自国の伝統文化もうまく継承しました。日本に来てまだ二ヶ月しか経っていませんが、和歌山城や奈良公園だけでなく、デパートでも着物の姿を何回も見かけました。着物は日本の伝統的な民族衣装で、その高い芸術性と独特なスタイルで世界に知られています。着物は中国の漢服に由来しましたが、日本文化と日本社会の特徴に合わせて、振袖や長袖などに変わりました。日本人は今でも成人式や結婚式やデートでも普通に着ていますが、一方、中国では結婚式以外チャイナドレスを着る光景はめったに見られません。特に、東京オリンピック大会にあたり、日本は世界各国・地域をモチーフにした着物を制作し、披露した画面を見たとき、すごく感動しました。

Old meets new、長く続く伝統と最先端の文化の共存こそ、私の目から見た日本文化です。日本文化は多元性、包容性、保守性が併存しているため、長い歴史的变化の中で一貫して独自の輝きを咲かせているでしょう。



幸せを追わないで

和歌山大学 交換留学生

Lee Seon

(イソン) (韓国)

僕はここで幸せについて話したいと思います。幸せになるためには毎日感謝しなさい、幸せになるためには運動しなさいのような言葉を、皆さんは今まで飽きるほど聞いたことがあると思います。しかし、僕は幸せを追わなければ、もっと素敵なライフを生きられると思います。

僕は基本的に人生は幸せと苦しみの循環だと思います。この循環の中で私たちはどう生きるべきか。それは幸せを追わず苦しみから逃げずに、人生は幸せと苦しみの循環だと知って生きるべきです。そうすれば、私たちはもう幸せですし、もう苦しくないし、より自由に生きられます。

幸せに関して違う態度を持っている人、AさんとBさんがいると仮定します。Aさんは幸せを人生の目標にして生きています。Aさんは、天国のような、幻のような幸せをただ願っている人、または努力して何かを達成したら自分は幸せになれると信じている人です。Bさんは、人生が苦しみと幸せの循環だと思って幸せを追わないし苦しみを避けないです。幸せな時は幸せを満喫するし、苦しい時は苦しみます。Bさんはいつか苦しさが来ると思いつつも準備しています。そしてその瞬間が過ぎたらまた幸せが来ると思っています。苦しさを耐える希望があります。しかし、Aさんはどうですか？今までずっと幸せになるために一生懸命努力したけど、苦しみが来ました。自分が欲しかった人生と反対だからもう苦しくないでしょうか。

幸せについてもう少し考えてみましょう。Aさんに自分が夢見た幸せより少ない幸せが来たと思います。Aさんはその幸せを満喫しますか？満喫せずに、自分の目標に向かってただ努力するでしょう。そして、ついに自分が目標にしていた幸せが来たら？その幸せは永遠ではないのです。Aさんはその後で何をすべきですか。前に追った幸せより多い幸せを目標にして生きる？そんなに欲しかった幸せの後で来ると思わなかった苦しみは？一方、Bさんは幸せな瞬間が来たら思い切り満喫します。これらのことから、BさんがAさんよりもっと幸せに生きられることがわかります。人生は苦しみと幸せの循環だと知って、苦しみに逃げず、幸せを追わない人は完全な自由に近づくこともできます。

Aさんはいつもどんなことを選択しても自分がしたいことより幸せに集中します。ですから、自分が何かをしたいけど、それが幸せになれないようなら選択しません。つまり、自分のしたいことが幸せという観念に縛られます。一方、Bさんは幸せは循環しながら来ると考えるから幸せに縛られないです。何かに縛られないことは自由です。

Bさんの考え方は無気力だと思われる方もいるかもしれませんが、この考え方を持ち続ければ、むしろもう幸せですし、苦しさが比較的少ないし、もっと自由に近づくことができます。ですから、私たちは幸せを追わずに目標とせず、人生が幸せと苦しみの循環であることを知って、幸せを感じながら苦しみにながら真面目に自分がしたいことを選択して生きるべきです。



文学に救われた私

和歌山大学 交換留学生
張 潜弋
(チョウ センヨク) (中国)

文学というタイトルですが、最初、私の夢は科学でした。毎日科学についての本やテレビ番組ばかり見ていました。ずっとこのままでも悪くないと思いましたが、高校に入ったら、自分の小さな願望と世界が、壊れてしまいました。

中国では、高校の時の大学入学試験が極めて厳しくて、高い点数を取って、いい大学に入らなければ、将来生きることも難しくなります。本来私は優等生でしたが、ある試験で、自分の成績が下がりました。特に数学と物理の点数が普段よりずっと低くなりました。成績が出たとき、みんなも信じられない顔をして、私の方を見ていて、担任の先生も何も言わずにただ私を睨んでいました。重苦しい雰囲気が感じられました。

数学と物理の先生にも呼び出されました。二人の先生の口から、「お前に失望した、ちゃんと自分の将来を考えろ！」と、同じ言葉を言われました。家に帰った後、両親の不信感も言うまでもなかったです。実は数学と物理が苦手ですから、勉強してもうまくいかないと何度も説明しましたが、努力が足りないといくら叱られただけでした。本当に学校や勉強に絶望して、もうやめようと、何回も考えました。

周りからみれば拗ねているかのように、自習の時全然勉強したくなくて、友だちから小説を借りました。あの桜色のカバーで、少し古く見える「伊豆の踊子」という本、今でも覚えています。読めば読むほど、小説の内容に沈んでしまいました。小説ってこんなに面白いものなのかとあの時の私に全く似合わない考えが芽生えました。知らないうちに何時間も経って、名残惜しかったですけど、返すしかなかったです。全部読み切ることができなかったですが、その本の文字はすでに泉のように私の心を濡らしました。その後、常に友だちから本を借りて読みました。そして、友だちに影響され、日本文学に特殊な感情が芽生えました。太宰治のふざけに隠れた絶望、川端康成の柔らかさの中の哀れ、芥川龍之介の変わる文体と変わらない皮肉、すべてが深く心に刻まれました。作家たちの描いた世界は唯一私にとって厳しい現実からの唯一の逃げ場になりました。落ち込むたびに、小説を読んでそれぞれの違う人生を経験して夢中になりました。数学と物理はまだそのままでしたが、本来興味のない国語が得意になりつつありました。本の世界にのめり込んだことで、辛い学校生活も我慢できるようになりました。そのまま高校の三年を凌いで大学に入りました。

最初大学に入った時は、理系の学生としてデジタルメディアを専攻しました。しかし、数学と物理のせいで、うまくいかなかったです。これまでの文学を追い求める心から、勇気をもって日本語の専攻に変えました。そのお陰で、私はここに立って自分の物語を作ったり述べたりしています。再び、文学に救われたと言えるかもしれません。

人の心には、穴があると思います。普段一体となる感情は、もしひどい目にあったら、つぶされてその穴から漏れることがあります。感情がなくなった時、人は暗くなって続ける力もなくなってしまうようになります。しかし、この穴を埋める方法があれば、ちょっと違うのではないのでしょうか。本があったからこそ、私は進学の泥沼から這い上がりました。本があったからこそ、私は自分の夢、文学を追いかけてここまでたどり着きました。文を書いたり本を読んだりしてここにたどり着きました。私の心の穴を埋めたのは、文学に間違いありません。ですから、辛い生活だとしても、きっと何か、誰かに救われて、心の穴を埋めてもらえるのです。人生の道はまだ長く、救われる物語も続いています。



第20回学長杯 留学生による日本語スピーチコンテスト概要報告

和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

■コンテスト概要

【目的】

和歌山県内の教育機関で日本語を学ぶ留学生が日本語スピーチコンテストを通じて彼らの日本語能力向上と地域の国際交流に寄与するため。

【日時・開催場所】

2022年12月17日（土）13:00～16:00

和歌山大学 北1号館 A101 教室

【出場者（在籍校）】

15名：和歌山大学／高野山大学／和歌山工業高等専門学校

【後援】

和歌山県／和歌山市／（公財）和歌山県国際交流協会／NPO法人WIN コンコード／
国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川／高野山大学／和歌山工業高等専門学校／
和歌山 YMCA 国際福祉専門学校

【ご列席いただきましたご来賓の皆様】

和歌山県 企画部企画政策局国際課 課長	岡澤 利彦 様
和歌山市 産業交流局 観光国際部 国際交流課 課長	千崎 晃伸 様
公益財団法人 和歌山県国際交流協会 常務理事・事務局長	北山 徹 様
和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 校長	加志 勉 様
和歌山国際ボランティア組織 KNOW 会長	有田 雅一 様
NPO法人WINコンコード 事務局長	中谷 公子 様
国際ソロプチミスト和歌山 会長	石田 知佐子 様
国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川 会長	上中 公美 様

【審査員】

和歌山大学 日本学教育研究センター長・審査委員長	長友 文子
独立行政法人日本学生支援機構 大阪日本語教育センター教員	郷田 雅美
和歌山大学 日本学教育研究センター 准教授	安本 博司
和歌山大学 日本学教育研究センター 助教	松下 恵子
和歌山大学 非常勤講師	嶋本 圭子



■募集要項

【出場資格】

和歌山県内の高等教育機関（大学、高等専門学校、日本語学校、専門学校）に在籍し、母語が日本語以外の者。18歳以上の者。

【演題】

内容は自由。制限時間5分以内（1,200～1,500字程度）

■審査について

【審査方法】

審査員による採点

【審査員の採点基準】

評価項目	評価の観点	各審査員持点
(1) 内容	印象に残ったもの、興味深い内容、など	5
(2) 構成力	一貫性があるかなど	5
(3) 日本語	語彙、文法、発音、イントネーションなど	5
(4) 表現力	アイコンタクト、身ぶり、声の調子など	5
合計		20

【制限時間】

制限時間（4分45秒～5分15秒）に対する過不足は、以下の点数を審査合計点から減点する。

- ・過不足10秒ごとに1点

本コンテストの運営にあたりましては、ご後援いただきました機関の方々、地域の方々からご協力、ご支援をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。

今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



□企画・編集□ 和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

□発行日□ 2023年3月1日 発行

□発行□ Center for Japanology Studies, Institute for Global Initiatives,
Wakayama University
【和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター】
〒640-8510 和歌山市栄谷930番地
TEL : (073) 457-7524 FAX : (073) 457-7886

□印刷所□ 麦の郷印刷
〒649-6338 和歌山市府中1167-1
TEL : (073) 464-3707 FAX : (073) 464-3708

